

今帰仁が飲酒検査 住民健診で県内初

今帰仁

(與那嶺幸人
今帰仁村)

村長)は地域公民館などで実施する住民健診で、アルコール問題を把握するための簡易検査を導入している。簡単なアンケートを行い、その場で点数化。村の看護師が健康への影響などを説明する。金武

町の国立病院機構琉球病院が協力。県内では初の取り組みという。

村民の飲酒状況や飲酒による健康被害、アルコール依存などについて正しい情報をつかむことで、それぞれの意識を高める狙いがある。また、村としても早期に介入し、適切なアドバイスを行うことでアルコール問題の解消や医療機関への受診につなげる事を目的としている。

簡易検査では「飲酒の頻度」「酒量」「適量で止められず、酔いつぶれるまで飲んだ頻度」「二日酔いによる欠勤など普通だと行えることが飲酒のためにできなかったこと」など10項目を質問。健診の待ち時間に回答する。

対象者は約千人。点数が高く、アルコール依存が疑われる場合は、飲酒量を減らすためのプログラムの受講を勧めるといふ。

村は、村内の企業健診などにも広めていきたい、として

いる。村の松田竹央保健師は、村内の健診で健康問題が発覚する人の多くは飲酒量が多いことを明かした上で、「本を絶たなければ、解決しないと考えた。まずはアルコールによる健康被害を抱えた人がどれくらいいるかを把握し、相談できる仕組みをつくりたい」と話した。